

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26023

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケートの結果から、「学習の中で自分ができるようになったことや分かるようになったことを振り返っている」と回答した児童の割合が8割を超えている。これは、研究部を中心として、「問い・学び合い・振り返り」を一貫して日常的に取り組んできた成果であり、自らの学びの成果を実感できている表れであると捉えられる。</p> <p>◇学年内専科の取組により、両学級とも同じ教科を同一の教員が担当する体制をとることで、授業準備・教材研究を効率的に進めることができた。また、同一教員が継続して指導することにより、教科における専門性を高めながら授業改善を図ることができた。</p>
	<p>◇児童アンケートの結果から、「めあてをもって学習すること」や「自分のめあてや課題に進んで取り組むこと」に課題が見られる。今後は、「だったら」「次は」「～だからこれからは」といった振り返りの視点を大切に、振り返りを次のめあてや目標設定につなげる指導を意図的に行い、夢中になって学びに向かう姿勢の育成を図る。</p> <p>◇教職員アンケートの結果から、「児童が主体的にICTを活用できるような取組を、授業や家庭学習の課題の中に位置付けること」に課題が見られる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇児童アンケートの「自分のよいところや友達のよいところを見付けて生活している」の項目については、前期から後期にかけて肯定的な回答が増加傾向にある。一方で、後期においても否定的な回答を示す児童が約60人程度見られることから、引き続き課題が残っている状況である。今後は、子ども同士の関わりや教師の働きかけにおいて、互いのよさや可能性を認め合い、温かく伝え合う場面を意図的に設定し、「自分は大切にされている」「仲間の役に立っている」と実感できるような学級・学年づくりを一層推進していく。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
夢中になって探究し、互いの考えを尊重し合うこと	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>(1) 部のねらい「子ども同士が互いの考えや気持ちを尊重し合い、笑顔が生まれる授業づくりを研究・実践する。」に基づき、授業研究や研修を計画的に実施する。</p> <p>(2) 「価値ある対話」の場を意図的に設定し、相手意識をもって考えを伝え合い、尊重し合う活動の充実を図ることで、子どもたちが学びの広がりや深まりを実感できる課題探究的な学習を推進する。</p> <p>(3) 出前授業や校外学習を通して、体験的に学んだり、専門の方から話を聞いたりする場を設定していく。</p>
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>① すみなみブランドの充実 →児童会活動を中心に、学校をよりよくするための取組を子どもたち自身が考え、実現していく機会の充実を図る。</p> <p>② 自分たちの学習・生活を振り返る場の設定 →各節の終わりの時期に実施するアンケートを活用し、自己の学習や生活を振り返るとともに、集計結果から学級や学年の課題を捉え、自分たちで改善に向けた取組を考える機会を設定する。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	<p>◇一人一台端末を活用し、自分や小集団(委員会活動やクラブ活動)での考えを整理・可視化したり比較したりすることで、学びの広がりや深まりにつなげる。【(2)や①】</p> <p>◇学習の過程や振り返りを蓄積・共有できるよう、ICT 活用に関する教職員の技能向上を図るとともに、子どもたちが自らの学びを確かめたり、振り返りを次の学びに生かしたりしながら、課題に夢中になって探究する姿を目指す。【②】</p>

<本プログラムの実行に向けて>

